



2年目マルシェ パワーアップ！！

みんなの「ちごいち」大成功

11月19日、晴天に恵まれた日曜日、学区の兒子八幡社で昨年に引き続き、2回目のマルシェ「ちごいち」が開催されました。子どもから年配の方々、家族連れなど、200人以上の方に会場いただき、イチョウが色づく境内がにぎわいました。神社を管理する氏子総代会や、学区の役員のみなさんご協力により、子どもたちを含めた地域の住民や出店者が多世代交流する「ちごいち」を無事に開催することができました。企画・運営に携わった有志の会メンバーもとてもうれしく思っています。(文章・神藤幸美さん)

キッズが大活躍

ど、楽しめる企画も充実。神社を知るクイズラリーや社務所での支えあいカフェもあり、世代を越えて秋の休日を楽しみました。

雑貨・グルメ・ゲーム おゆずり会・クイズも

14の出店者は学区にゆかりのある方々で、小物や雑貨などの手づくり品から、グルメまで多彩なブースが並びました。おしゃべりやゲーム、読み聞かせな



子ども店員の駄菓子屋・おゆずり会
境内が多世代交流の場に



警備お任せあれ！



会場では、防犯委員会和消防団が、交通安全事故が起きないように警備をしてくれました。ありがとうございます。

子ども店員には14人が応募。駄菓子屋さんやおゆずり会などで大活躍してくれました。「お客さんがたくさんで忙しかったけれど、計算や袋詰めが楽しかったよ」と子どもたちも良い思い出になったようです。

また、おゆずり会で神社の修繕費用の寄付を募ったところ、8千円の温かいご支援が集まりました。ご協力ありがとうございました。ご協力ありがとうございました。



氏子総代会さん全面バックアップ

役員さんは当日に向けて、境内の草を刈り、和式だったトイレも洋式に改装。「住民から親しまれ、気軽に訪れてもらえる神社にした」。日ごろ、そう話している役員さんも「ちごいち」の今回の開催を願っていました。

「鳥居の高さは何メートル？」 「この切り株の重さは？」 「ちごいち」の会場では、ボランティアで神社の管理、境内の手入れをしている氏子総代会の役員さんが、みんなで楽しめるクイズやゲームを企画してくれました。

鳥居の高さは？クイズなど企画

今月の題字
2023年を締めくくるイラストは、東志賀小6年の真下結太君がクリスマスにちなんだ作品を届けてくれました。岡本太郎に憧れ、今夏、学区盆踊り大会のポスターを描いてくれた真下君。創作への情熱、オリジナルの世界観が、"きらりと輝く作品です。"

町の英雄 情報求む

学区の地域新聞「東志賀ヒーローズ」は、地元の明るい話題を大募集中です。情報提供をお願いします。題字のイラストもお寄せください。問い合わせは編集部 鈴木龍司(アバン第1町内会長) 02-3534-3502

専用メールは、[higashihigherocom@gmail.com](mailto:higashihigashihigherocom@gmail.com)

電子版新聞
ここから！



これまでの地域紙「東志賀ヒーローズ」と「ささえあいたより」を読むことができます。

ともだちつくる会 クリスマス会



今年もサンタがやって来た！

サンタクロースがやって来た！学区の子育てサロン「ともだちつくる会」が12月6日、東志賀コミュニティセンターで恒例のクリスマス会を企画しました。プレゼントを背負ったサンタさんがサプライズで駆けつけると、キッズとママは大喜び。楽しい1日を過ごしました。

「地域のママがつながり、お友達をつくる場を届けたい」。サロンは東志賀民生委員児童委員協議会が中心となり、毎月、多彩な企画を準備してくれています。この日は工作やマジック、リズム遊びを楽しんだ後、目の前にサンタさんが登場。プレゼントをもらって、ニコニコ笑顔の子どもとママたち。記念写真が宝物になりました。

寒さに負けず防犯パト

とての意気込みが伝わってくる」とあいさつ。防犯委員長・高木賢一さんの「道が暗いので気を付けて回りましょう！」の号令で出発しました。

※ 自転車盗の被害が多発しています。2重ロックなどの対策で被害を防ぎましょう！

自転車盗が多発



被害防止へロックを！

きょうり ③ 熱血コーチ 中村誠さん



「人の話を聞く時は相手の目を見るんですよ」「道具はきれいに並べるよ」。学区ジュニアスポーツの球児が、かわいい。だからこそ、時には厳しく言う。自身の生い立ちを「負けからの人生」と表現する。小学生の時、「音痴」とからかわれた。悔しかった。音感は鈍いが、敢えてマーチングバンドクラブに入った。管楽器は無理。大太鼓やシンバルを人一倍、練習し、

悔しさが原動力 負けても幾多の道がある

イベントに出演するまで成長した。高校生の時、アメリカ人の巡回講師に「発音が悪い」と言われた。悔しくて、単身アメリカに渡った。ファーストフード店でシェイクの注文もできなかったが、現地の大学を卒業した。特技はスキューバダイビング。実は船酔いや高所恐怖症(海に深くもぐると症状が出る)があるが、マスターダイバーの資格を取った。海が縁で心肺蘇生の重要性を知る。「野球のボールが子どもの胸に当たったら…いざという時に必要」。今は上級救急救命講習に通っている。

5年前、大腿骨折の大きけをしたが、児童とグラウンドに立つ。打てない。捕れない。きつと親の前では見せない悔し涙が、かつての自分と重なる。「人それぞれ、向き不向きはある。負けても、てっぺんを取るには、幾多の道がある」。無限の可能性を背中であげたい。

卓球団体準V 北区大会で活躍

第74回北区卓球大会の団体の部(学区對抗)で、東志賀学区チームが見事、準優勝に輝きました。「チームの皆さん」選手兼監督・白井裕也さん、都梅延

洋さん、世界球予さん、松岡良美さん、池見美代子さん

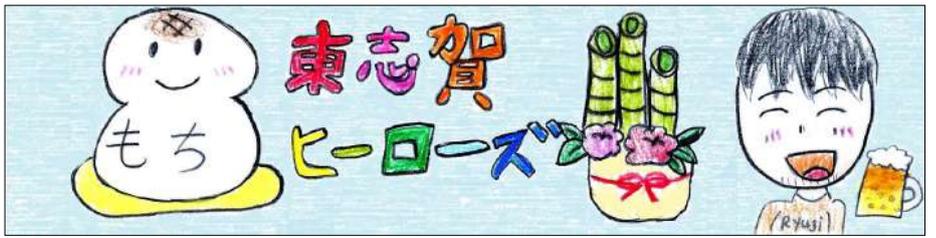
賞状



ソフト&野球 児童を募集

東志賀ジュニアクラブは、白球を追いかける仲間の児童を募集中。問い合わせは、チームHPの問い合わせフォームから。





学区防災訓練でつながる

新しい年が始まりました。世界に目を向けると、ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルとパレスチナの衝突など、悲しい戦争が続いています。東志賀学区は今年も平穏な1年であってほしいと願うばかりです。心配なのは、近い時期の発生が予想される南海トラフ巨大地震。もしもの時は住民で力を合わせて大切な命を守ることが必要です。備えあれば憂いなし。消防団と防災委員会は昨年11月、学区自主防災訓練を企画してくれました。助け合いには、住民同士の顔の見える関係が大切。約200人が参加した訓練は、貴重なつながりづくりの機会にもなりました。

命 みんなで守る



救助お任せを！



低い姿勢を取って頭を守るシェイクアウト訓練、消火器、AEDの講習、がれきからの人命救助、防災用品が当たるお楽しみ抽せん会。学区の安全・安



消火完了！



心のために精力的に活動している消防団と防災委員会は、豊富な企画を用意してくれました。東志賀小の子どもたちも、ヘルメットをかぶり、大人と一緒に訓練に励みました。消防団がキビキビした動きで放水訓練を披露すると、「かっこいい」と歓声が上がりました。

大人気だったのが、「ちびっ子放水訓練」。団員に支えてもらい、校舎に向かって勢よく放水しました。保護者は、消防服姿の凛々しいわが子をカメラで撮影していました。お母さんの1人は「親子で防災のことを楽しく学ぶことができました。次の機会もぜひ、参加したいです」



学区の自主防災訓練に合わせて、各町内会で安否確認の練習をしました。「どの家が避難を終えて、どの家に逃げ遅れた住民がいるか」。効率的な人命救助には、こうした安否情報の素早い把握が最も大切

「無事です」避難時に掲示を！

です。学区では「この家は無事です」と書かれた札(写真)を玄関のドアノブに掲げることで、安否確認を進めることにしています。札をお持ちでない方は、タオルなどを代用してください。各町内会の訓練では、ほぼ10割く3割まで掲出率に大きな差が出ました。防災全般のマニュアル作りも進めてくれている防災委員会は「安否確認の訓練は有事の際に役立つ訓練だと自負しています。ぜひとも、自分ごととして意識してほしい」と呼びかけています。

今月の題字
2024年、最初の題字は東志賀小3年の丸山心遙さんがお正月にちなんだ作品を届けてくれました。生ビールのジョッキに満面の笑みを浮かべる男性のイラストも。上着には「Ryuji」の名前が！ビール大好きな編集長(鈴木龍司)。ヒーローズ1月号を宝物にします！

と喜んでいました。学区の役員は「今回は子どもさんの参加が非常に多くとても良かった。多世代交流の場にもなりました」と振り返っていました。

町の英雄 情報求む

学区の地域新聞「東志賀ヒーローズ」は、地元の明るい話題を大募集中です。情報提供をお願いします。題字のイラストもお寄せください。問い合わせは編集部の鈴木龍司(アバン第1町内会長) 080(3502)3534 専用メールは、higashihigashies@gmail.com

電子版新聞
ここから！



これまでの地域紙「東志賀ヒーローズ」と「ささえあいたより」を読むことができます。

謹賀新年 新しい朝が来た！ 「健康」「つながり」ラジオ体操



東志賀の朝はラジオ体操から始まります。学区のキーワードは今年も「健康」と「つながり」。東志賀公園(北図書館の隣)では、晴れの日も雨の日も、住民が元気に体操を続

坪内さん 食品衛生に貢献で大臣賞

毎朝の体操でラジオ係を引き受けている坪内大二さん(85)が、長年にわたって食品衛生協会の活動に尽力し



たとして厚生労働大臣表彰を受けました。お菓子の原材料の卸業をしている坪内さんは、食中毒防止の啓発や衛生検査などの活動に貢献。「役などを頼まれたら、放っておけない性格。何事も継続する。それが今年の目標です」と語ってくれました。

けています。東の空が黄色く輝き始める朝6時半。「新しい朝が来た。希望の朝だ」。いつものようにラジオが流れます。「あら、お久しぶり」、

毎朝6時半 @東志賀公園

住民同士のコミュニケーションの場になっています。毎年、夏休みには子ども会も参加し、体操の輪は100人規模にふくらみます。早起きは三文の徳。通学や通勤の前に、ぜひ、顔を

出してみてください。

学区長 きらりり ④ 山崎悦男さん

午前5時半。まだ寝静まった学区の一角で、朝のルーティンが始める。住民のことを思って、音が出にくいほうまで落ち葉を集め、ごみを拾う。ラジオ体操の後は登校する児童の見守り。「まずは自分自身が動く」。1万人が暮らす学区を引っ張るリーダーとして、言葉ではなく、行動を大切にしてきた。自発的に清掃を手伝い、地域の役割を快く引き受けてくれる住民がいる。「自分たちの手で住みやす



行動派のリーダー 次世代に住みやすい学区残す

い学区にしたい」。その思いが共感された気がして、うれしい。「仕事人間」だった人生の転機は40代のころ。息子が参加した学区のソフトボール大会を手伝った。「子どもの成長を地域が支えてくれている」と気付いた。この時期、近所付き合いの重要さも知った。体育委員。町内会長。民生委員。そして東志賀学区連絡協議会会長(学区長)。これまで地域の主要な役を二つ返事で引き受けてきた。手帳は地域の用事がギッシリ。「なぜ、こんなことをしているのか」。ふと自問自答することもある。「結局、将来を担う子どもたちのためにやっているんだと思う」。我が子を育ててくれたのは地域。孫の1人は甲子園出場の夢も果たした。人がつながり、思いやりがあつて笑顔があふれる学区を次の世代に残したい。だから今日も、早朝の清掃から忙しい1日を始める。

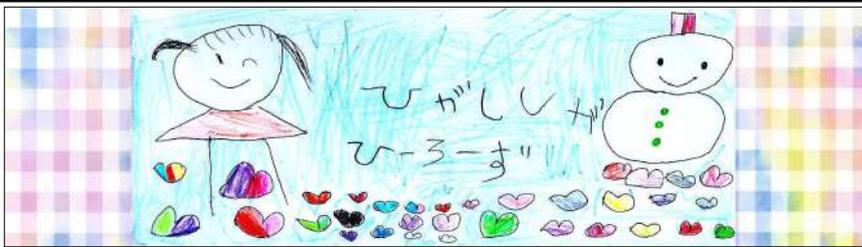
消防団・防犯委員 平和な日常支える 年の瀬の夜警



ソフト&野球 児童を募集

東志賀ジュニアクラブは、白球を追いかける仲間の児童を募集中。問い合わせは、チームHPの問い合わせフォームから。





希望の灯 点火



新成人学区で祝う

自分らしい未来を切り拓く！ 東志賀学区の成人式が1月8日、東志賀小で開かれ、約60人が大人の第1歩を踏み出しました。式典は毎年、学区や町内会の役員らが真心を込めて準備しています。今年も地域が丸となり、地元で育った大切な新成人の門出を祝福しました。

長かった新型コロナ禍の影響もあり、晴れ着姿の新成人は久しぶりの再会を喜び合いました。国歌斉唱は木村惟慈さんがピアノを演奏しました。学区の式典の目玉は、新成人の明るい未来を願う「希望の灯」。樋口大樹さんと中野梨沙さんがロウソクに火をともし大役を務めました。会場には在校時の恩師もおいに駆けつけてくれ

ました。6年時に担任だった加藤己幸先生と手島拓哉先生が立派に育った新成人にエールを送り、樋江井陽生さんと篠澤美羽さんが感謝の言葉を伝えました。伝統の交通安全宣言は磯部寛人さんと林春奈さんが担当。懐かしい校歌を全員で歌い、決意を新たにしました。若者の可能性は無限大！学区は皆さんの未来を応援しています。



懐かしの校歌 決意新たに



学び舎で笑顔の再会

今月の題字
「東志賀ヒーローズ」2月号の題字は5歳の井村美玖ちゃん、雪だるまと女の子をかわいく描いてくれました。ハートいっっぱい。能登の震災や海外の戦争など、悲しいニュースが続く中、心が温かくなる作品ですね。また、応募してね！

毎朝6時半
ラジオ体操
@東志賀公園

花井英介さん



た手島拓哉先生との出会い。「生徒と仲が良く、でも、時に厳しいことも言ってくれる。私も『この人に付いていきたい』と思われる教師になりたい」。学区の印象を「アットホームで人が温かい」と語り、「いつか、地元の北陵中で指導してみたい」と将来のビジョンを披露してくれました。

私の誓い



成人式で「誓いの言葉」の大役を担った安田和未さんと花井英介さんに、将来の目標や学区への思いを聞きました。「先頭に立って周りを引っ張り、ともに成長していける大人になりたい」。安田さんは中学校の教員を目指しています。きっかけは小学生の時に担任だった

恩師のような先生に／笑顔を届ける医師に

「自分の手の届く人の病気を治し、笑顔にしてあげたい」。高校時代に見つけた「やりたいこと」を叶えるため、勉学に励んでいます。「のんびりしていて過ごしやす」と語る東志賀学区。「地元に戻って医師をすることも将来の選択肢の1つ」と語ってくれました。

ンを披露してくれました。医師を志す花井さんは現在、地元を離れて東京大学で勉学中。「自分のやりたいことをやる。責任感を持ちつつ、昔の気持ちを忘れない大人になりたい」。高校生の時、友人が難病にかかり、医師になることを決意したそうです。

2024年(令和6年)
3月号(第34号)
発行：東志賀学区
連絡協議会



ヒーローズが育む縁

フィギュアと絵贈り合う

住民の「つながり、づくりを願って発行している「東志賀ヒーローズ」。巨匠・岡本太郎に憧れ、創作活動に励んでいる東志賀小6年の真下結太君と、町内会長や防災委員として地域で大活躍する谷口元さん。3月号のトップニュースはヒーローズの記事がきっかけで、世代を越えた縁を育んだお二人の心温まる話題をお届けします。

作家の真下君と町内会長の谷口さん



先日、谷口さんから編集部に「岡本太郎のフィギュアを価値の分かる『彼』にプレゼントしたい」と連絡がありました。谷口さんが言う『彼』とは、昨夏の学区盆踊り大会でポスターのイラストを手がけた真下君のこと。ヒーローズは当時、真下君が岡本太郎に寄せた熱い想いを記事で紹介しました。真下君が通っている絵画教室で開かれたサプライズの贈呈式。谷口さんから岡本太郎の人気作品「犬の鉢植え」のフィギュアを渡された真下君は「えっ！ 本当に良いんですか？ うれしいです」とびっぴり。偶然にも、真下君はこの直前、「犬の鉢植え」をモチーフにした題字のイラストをヒーローズに応募してくれていました。贈呈式の後、2人は作品集をめぐりながら、岡本太郎談義に花を咲かせていました。「ヒーローズのおかげで、良い出会いができた」と谷口さん。真下君は後日、お礼として自作の絵(写真Ⅱ右)を谷口さんの元に届けたそうです。



ヒーローズ海を越えて編集へ

創刊以来、住民に身近なニュースを届けてきた「ヒーローズ」。編集長の鈴木龍司さんが勤務先の新聞社の転勤で、2月にアメリカの首都・ワシントンへ赴任しました。「廃刊のピンチ？」との声も出しましたが、住民の後押しを受け、太平洋をまたいで編集することが決まりました。コロナ禍ではLINE(ライン)などのSNS(交流サイト)や、Zoom(ズーム)を使ったオンライン会議が普及しました。編集部では住民の方に取材してもらった記事や写真を、メー

鈴木編集長 アメリカへ転勤

ルを含めたIT技術で米国に送り、編集する方式を採用します。そこで皆さんへのお願いは、ホットな話題の情報提供です。「地域で頑張っている人」「行事の案内」「活動の仲間の募集」。ジャンルは問いません。まずは編集部に連絡してください！「パソコンやスマホ、文章は苦手」という方もご安心を。要点の箇条書きや手書きの記事もOK。編集部がサポートします。日本を拠点に編集する地域紙はきつと全国初！ご協力と応援をよろしく願います！

【これからのヒーローズの編集体制】



【身近なニュースを大募集！】

まずは「こんな話題はどう？」という情報を下記の編集部メンバーの宛先にご連絡下さい。

■学区長・山崎悦男さん

☎090(1277)3131

■編集部専用メール

アドレス=heroeshensyuubu@gmail.com

担当・神藤幸美さん、天野美帆さん

今月の題字

編集長が米国ワシントンに移住して、最初の発行となった3月号。記念号の題字は東志賀小学校4年生の加藤紗良さんと松田いろはさんが『かどまつ』のコンビ名で、ひな祭りを題材にした春満開の作品を届けられました。題字は随時、募集中です。いつか、編集長も米国のスケッチ画を応募してみようかと、妄想しています。

電子版新聞

ここから！



これまでの地域紙「東志賀ヒーローズ」と「ささえあいたより」を読むことができます。

安心な生活、応援する役割担う

令和3年創刊の東志賀ヒーローズは、今月で34号を数えるに至りました。タイトルの絵を子どもたちに描いてもらい、数え切れないほどの地域活動を紹介するなど、学区のつながりになくてはならない存在で、住民の樂しみの1つにもなっています。私は平成28年に学区区政協力委員長(学区長)を岡本茂彦さんから引き継ぎました。住民の皆さんが誇りを持つ地域を目指し、さらに住みよくするために何を柱にするべきか、ずっと考えてきました。

住みよい学区の柱に

そこで、当時、アーバンライフの町内会長に就いた新聞記者の鈴木龍司さん(現・編集長)に「少子高齢化でも人々が安心して暮らせるように、人と人をつ結び付ける新聞があると良いね」と相談しました。こうした経緯で創刊されたヒーローズは、



「ヒーローズ」への思い

寄稿・山崎悦男学区長

学区の安心な生活を応援する役割を担ってくれています。鈴木さんから米国ワシントンへの転勤を知らされた時は心から喜び、飛躍を願う一方で、驚きと衝撃も隠せませんでした。

ICTと思いで存続

発刊を一手に担ってくれてきただけに、ヒーローズの運命はどうなるのか、心配しました。しかし、アメリカと学区をICT(情報通信技術)で結び、北区社会福祉協議会さんの協力も得ながら発行を続けていく道筋ができました。存続をうれしく思います。これからも住民で力を合わせて高齢化社会に立ち向かい、安心して住み続けられる町を目指していきましよう。



きりり ⑤

鈴木龍司さん

2月から本業の新聞記者として米国ワシントンに赴任した鈴木龍司さんに、編集長を務める東志賀ヒーローズへの想いを聞きました。(文章・神藤幸美さん) 創刊のきっかけはコロナ禍に学区長の山崎さんから「地域の住民がつながるための新聞がほしい」と相談を受けたこと。自分のスキルを生かせ、人口1万人ほどの学区の超ローカル新聞から新たな出会いや動きが生まれるのではとわくわくしました。



ヒーローズ編集長続投 渡米後も学区の一員！

回覧板と掲示板で始まった本紙も、今では小学校や保育園でも配布されています。子どもたちからは「あっ、ヒーローズの人だ！」「これも、新聞に載るの？」、年配の方からは「毎月、楽しみにしているよ」と声をかけてもらい、やりがいを感じます。転勤が決まった際、学区の人たちは「みんなで協力してヒーローズを続けたい」と申し出てくれました。最初はこじんまりと始まった新聞が、地域にとつて必要とされるものになってきたことが実感でき、その夜のビールは最高でした(笑)。ワシントンでは日本人が多く暮らし、町内会のあるマンションを選びました。異国で不安を抱えるなか、ホームパーティーに招いてくれたり、生活の困り事を聞いてくれたり。改めて地域のつながりの尊さを実感しています。皆さんの熱い思いと記事を米国でも編集し続けます！

体験して楽しい！ 4月21日 少林寺拳法護身術

4月21日(日)午前10時〜11時半まで、学区の少林寺拳法名法道院(長喜温泉斜め前)で、無料の護身術体験会が開かれます。参加資格は小学生以上。ファミリー大歓迎です。

問い合わせは、名法道院長の鈴木貴博さん ☎090(2132)6316へ。専用の申し込みフォームはこちらから。



ソフト&野球 児童を募集

東志賀ジュニアクラブは、白球を追いかける仲間の児童を募集中。問い合わせは、チームHPの問い合わせフォームから。





球春到来

春本番。いよいよプロ野球の新シーズンが開幕し、東志賀学区ではジュニアクラブのキッズが元気に白球を追いかけています。学校には大谷翔平選手が贈ったグローブが到着し、子どもたちは大喜び。編集部は中日ドラゴンズOBのレジェンド選手、ケン・モッカさんからも学区ジュニアスポーツの子どもたちへの熱いエールをもらいました。

写真はドジャース
大谷選手が子どもたち
ちに贈ったグローブ



才能より努力。基本が大切。ハート熱く！

40年余前のお話です。1982年、中日ドラゴンズはセ・リーグで優勝しました。チームを引っ張ったのが、アメリカ人のモッカさん(73)です。3番サードで打率3・11、23本塁打。その後、大谷選手が活躍するメジャーリーグの監督としても優勝を果たし、今は、ふるさとのアメリカで若者に野球を教えています。「ハイ！ 東志賀の子どもたち、ベースボールを楽しんでいるかい？」

ドラV戦士・モッカさん

私も幼いころは友達と暗くなるまで野球ばかりしていた。大の負けず嫌いで、誰よりも練習したね」「どれだけすごい才能があっても、最後まで頑張れない子は良い選手にはなれない。上手な子も、そうでない子も努力を続けてくれ」「メジャーの監督時代もトスバッティングとノックの練習を大事にした。コーチから教わる基本が大切だよ。ジュニアのみんな、熱いハートで勝利へ突き進め！」



鈴木編集長に子どもへのメッセージを託すモッカさん(左)=米国で

ソフト野球 児童を募集

東志賀ジュニアクラブは児童を募集中。問い合わせはチームHPの問い合わせコーナーから。



仏教保育絵画展 園児3人入選

愛知県仏教保育協会が主催する第56回仏教保育絵画展で、金城幼稚園に通う東志賀学区の3人が入選し、2月に表彰されました。

ゆきちゃん・あきと君・ゆきのちゃん

見事、賞に選ばれたのは末田ゆきちゃん、浅野あきと君、谷岡ゆきのちゃんの3人です。絵のタイトルは「じょうどうえ」。お釈迦さまが菩提樹の下で悟りを開き、仏陀になったお話聞いて描いた絵です。それぞれがお話の中で印象に残った場面を丁寧に描いています。

上手に描けたよ！

今月の題字

4月号のタイトルのイラストは東志賀小4年の末田ゆきちゃん(つむぎ)ちゃんが満開の桜を色鮮やかに描いてくれました。つむぎちゃんは「仏教保育絵画展入選」の記事で紹介した末田ゆきちゃんのお姉さん。姉妹そろって、かわいく、上手な絵で紙面を彩ってくれました。題字はキッズ、大人問わず広く募集しています。

このヒーローズの4月号が配られる頃には、3人も東志賀小学校のピカピカの新1年生になっています。これから小学校の図工で描く絵が楽しみですね！

(文章・東志賀学区のママ)



写真は上から、ゆきちゃん、あきと君、ゆきのちゃんです。



地元情報多彩 学区HP開設

東志賀学区のイベントや地元で活動する団体などの情報が満載のHPが開設されました！ネット上で「東志賀学区」と「Jimdo」の2つのワードを入力して検索してください。2次元コードからもページを開けます。学区の念願だったHPは有志のメンバーが苦勞して作成し、更新してきています。その舞台裏は今後の紙面で詳細報告します。



電子版新聞 ここから！

過去の「東志賀ヒーローズ」と、ボランティア通信「ささえあいたよ」を読むことができます。



学区ふれあいグラウンドゴルフ 上岡清子さん総合V



写真⑥は入賞者 ⑦は体育委員

第27回 体育委員が運営に力

通学路 見守る人がいてくれる

学区の交差点では朝と夕方、大勢のボランティアが黄色の上着を着て子どもたちを見守っています。「大切な子どもが交通事故にあわず、安全に元気に学校へと通えるように」。そんな心意気で活動してくれています。

新入生も安全に登校

3月には東志賀小学校で交通安全感謝の会が開かれ、交通指導員やスクールポリス、有志の住民に感謝の花束が贈られました。通学路でボランティアの人たちと出会ったら、「おはようございます」と元気にあいさつをしましょう！



3月に開催され、54人が出場し、上岡清子さんが総合優勝。男性は優勝・永井秋雄さん、2位・岡崎邦雄さん、3位・西尾栄蔵さん。女性の2位は河合弘子さん、3位は箕浦純子さんでした。おめでとうございます！

野鳥の調査と保護ライフワーク

安田さん カラスの子育てパチリ



長年、野鳥の観察と保護に取り組む学区の安田耕治さんが、東志賀公園で子育てをしているカラスの写真を届けてくれました。住民の憩いの場の公園では毎年春、ホシボソガラが巣を作るそうです。右側は卵を大事に抱えています。

ている親鳥の写真。都会でたくましく生きる様子が伝わってきます。昨年度まで学区内の町内会長を務めた安田さんは、野鳥をはじめとした環境調査が本職。日本野鳥の会愛知県支部などでも活動されています。

「親鳥が注意深く周囲を観察し、行動を変える様子を見ると、『よく考えているなあ』と感心します」と安田さん。ヒナ鳥が無事、巣立った瞬間に喜びを感じるそうです。編集部はこれからも、学区で元気に暮らす野鳥たちの心とむす話題をお待ちしています！

アメリカ力編集室便り



編集長が暮らすワシントンには2月から桜が咲き始め、観光客でにぎわいました。実はワシントン名物の桜は日本が由来。1912年、「平和と親善（友達）の象徴に」と、日本が贈りました。写真後方はワシントン・モニュメント（記念塔）です。高さ169メートル。この塔がどこからでもよく見えるように、街のビルは厳しく高さを制限されています。（鈴木龍司）

街のニュース&題字募集中です！

■電話＝山崎学区長
090(1277)3131
■メール＝天野さん、神藤さん
heroeshensyuubu@gmail.com